

守谷市教育委員会定例会会議録 令和4年12月

1 日 時 令和4年12月23日（金） 午後1時30分～午後2時23分

2 場 所 守谷市役所議会棟2階 全員協議会室

3 出席者 教育長 町田 香  
 教育長職務代理者 河原 健  
 教育委員 寺田 弘  
 教育委員 萩谷 直美  
 教育委員 椎名 和良

4 欠席者 なし

5 説明のための出席者

教育部長	小林 伸稔
参事	奈幡 正
教育部次長兼生涯学習課長	福島 晶子
学校教育課長	前川 優子
教育指導課長	大場 邦宏
学校給食センター長	坂 登司男
中央図書館長	平塚 恭子

6 傍聴人 1名

7 会議に付した事項

(1) 報告事項

報告第 9号 令和4年度ハラスメント対策委員会の調査結果について  
 報告第10号 令和4年守谷市議会12月定例会について  
 (教育委員会所管分)

1	開会宣言	教育長	午後1時30分 開会を宣言
2	傍聴の許可	教育長	本会の傍聴希望者1名の傍聴を許可する。
3	会議録署名委員の指名	教育長	本会の会議録署名人に椎名委員を指名する。
4	報告事項	教育長	報告第9号「令和4年度ハラスメント対策委員会

	<p>の調査結果について」は、個人情報が含まれる案件のため非公開としたい。</p>
各委員	<p>異議なし</p>
教育長	<p>報告第9号「令和4年度ハラスメント対策委員会の調査結果について」報告を求める。</p> <p>地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第14条第7項及び守谷市教育委員会会議規則（昭和30年教委規則第3号）第13条に基づき審査経過は非公開とする。</p> <p>（学校教育課長による説明）</p>
教育長	<p>報告第10号「令和4年守谷市議会12月定例会月議会について（教育委員会所管分）」報告を求める。</p>
教育部長	<p>令和4年守谷市議会12月定例会月議会に上程しました教育委員会所管の議案等の採決結果について、報告します。</p> <p>議案第76号「令和4年度守谷市一般会計補正予算（第6号）」は、11月の定例教育委員会で承認いただいた要求額の内容と変更なく、全員賛成で可決いただきました。</p> <p>次に、主な内容について、説明します。</p> <p>資料P7、第3表、債務負担行為補正では、「小中学校適正配置計画策定業務委託」から「学校給食センター蒸気ボイラー保守管理業務委託」の7項目について承認いただきました。</p> <p>資料P10～P12の歳出では、職員の「時間外勤務手当」の増額や学校施設及び社会教育施設等の電気料金上昇に伴う「光熱水費」の増額。また、学校の門扉改修や防火設備の不具合箇所是正のために必要となる「修繕料」の増額や休日の部活動のモデル事業を実施するための「委託料」の増額など、要求した増額補正は、全会一致で承認されました。</p> <p>続いて、市政に対する一般質問への対応について報告します。</p> <p>今回の議会では、11名の議員から通告があり、</p>

そのうち9名の方から教育委員会に関する質問がありました。

初めに、資料P23、1番の青木公達議員からは、今年度市議会に報告した点検・評価結果から、いじめの認知件数が増加傾向にある理由や、未然防止対策等について質問がありました。

この質問に対し、いじめは本人が苦痛と感じたら認知されると、また、認知件数の増加は全国的な傾向であり、各学校がささいなことも見逃さないよう努め、教職員の目を行き届かせている結果でもあり、悲観すべきことではないとお答えしました。

また、未然防止の取組として、令和3年度から学校教育改革プランの中で、いじめ・不登校ゼロパックを進め、日々の教育活動の中でいじめをなくす取組を進めていること。発生後の早期解決、再発防止のため、市教育委員会と各学校にいじめ対策本部を設け、各学校で毎月、対策会議を開き、いじめの認知、認知後の対応方針等を話し合い、教育委員会と連携しながら解消に努めていることなどについてお伝えしました。

議員からは、増加傾向にあるいじめ解消に向け、「教職員が本来の業務に専念できるよう体制を強化すべき」、「もっとマンパワーを投入してもよいのでは」といった御意見を頂きました。

次に、資料P29、2番の高梨恭子議員からは、学校給食について、地産地消や旬産旬消、食品ロス削減の取組や食物アレルギー児童への対応のほか、食材高騰の影響による今後の給食費に関して、質問がありました。

この質問に対し、給食食材は教育的観点と地域経済活性化等の視点から、守谷市産、茨城県産を優先して価格とのバランスを考えながら調達していること。また、県内産の使用割合は、健康もりや21計画に定める目標値50%以上の割合で使用していること。食品ロスを減らすため、残量を分析し、味付けや調理方法等を工夫していることから、前年度に比べ、1人当たりの残食率が小中学校ともに減少していることなどについてお伝えしました。

また、アレルギー児童への対応については、対応人数が年々増加しているが、事前に献立を保護者に

伝え、喫食の可否を管理栄養士、栄養教諭が保護者と連携し対応していること。新施設の稼働により、来年度からアレルギー代替食の提供ができるようになること。各学校でアナフィラキシーショック発症時に適切な対応ができるよう、発症した際の対処法や行動の手順などについて定期的に研修を行っていることについてお伝えしました。

また、食材高騰による食材料費の負担については、給食費の引上げという形で保護者に負担を求めるのではなく、当面は高騰分を市費で賄っていく旨の回答をしました。

議員からは、物価高騰により家計への負担が増える中、給食費の増額分を市が負担するという点に関して、高く評価するとの意見がありました。

次に、資料P38、3番の山田美枝子議員から給食費の無償化に関する質問があり、市長から、年間約2億9,000万円の全額を市が負担することは、財政上大変厳しいため、無償化の意思はない旨の回答がありました。

次に、資料P45、4番の山本広行議員からは、2年間中止になっているサタデー学習支援教室の再開や事業拡大等について質問がありました。

この質問に対し、来年度も感染状況を見て再開の判断をしていくこと。引き続き無償で実施していくこと。希望者が多く、守谷中学校の地域交流スペースでは手狭になっていることから、開催場所の確保や1人1台の端末を活用した学習支援等も今後検討の必要があることについてお答えしました。

次に、資料P48、5番の海老原博幸議員からは、オーガニック給食に対する市の認識や、ある講演会での講師の話を基に、オーガニック食材が不登校の要因である気力や不安の解消に効果があるとして、不登校児童生徒の給食にオーガニック食材を導入できないかとの質問がありました。

この質問に対し、学校給食を有機農産物に変えていくことは、環境的にも理想的であるが、6,000食の供給量の確保と価格の面で課題が多く、今後の研究課題とすると回答しました。

また、不登校生徒へのオーガニック給食導入については、はばたきの通所生は弁当持参であること。

また、フリースペースの通所生は給食となるが、栄養のバランスを考えた安心安全な食を提供することが学校給食であり、一部の児童生徒に医学的、科学的根拠のない食材を提供することは難しいと回答しました。

次に、資料P53、6番の堤茂信議員からは、守谷市のダイバーシティ宣言における「多様性を認め合い、インクルーシブなまちづくりに向けた意識醸成を行うとともに、既定観念にとらわれない新しい環境を創出できる人材を育成することで、誰一人残さないダイバーシティの実現を目指します。」といった人材育成の部分について、教職員に対する研修や子ども達に対する教育をどのように考えているか質問がありました。

この質問に対し、新規転入教職員には、市の人権推進課による講義を受けていただくこと。また、各学校では、県が作成した人権啓発資料や性的マイノリティーに関する動画等を活用した校内研修を行っていること。さらに、児童生徒には、道徳の時間等を活用し、性別や国籍、障がいの有無などによらず、互いに認め合うことの大切さを教え、人材育成に取り組んでいると回答しました。

次に、資料P60、7番の砂川誠議員からは、市内公共施設の防犯カメラの設置基準や費用、効果等について質問があり、市内小中学校では現在62台のカメラを設置していること。設置費用は1台当たり約45万円掛かっていること。更新の際には、効果的なカメラの位置や必要台数等について警察などから意見を伺い、防犯体制をさらに充実させたいと回答をしました。

次に、資料P64、10番の長谷川信市議員からは、守谷型カリキュラム・マネジメント（以下、「守谷型カリマネ」という。）の効果と課題、また、障がいがある児童生徒への対応と課題についての質問がありました。

守谷型カリマネの効果としては、市独自の週3日以上5時間授業の教育課程により、児童生徒、教職員ともに放課後にゆとりの時間が生まれ、子ども達にとっては学習効果の向上に、また、教職員にとっては教材研究の充実や子ども達と向き合う時間の

確保につながっていること。また、今年度から実施している守谷型カリマネを生かした部活動改革によって、生徒の早期下校と活動時間の確保が両立されたことで、改革の有効性をより実感する教職員が多く、この取組が今や国や全国の教育関係者から注目される教育課程となっていることをお伝えしました。

一方で、導入から4年が経ち、教職員にとって放課後のゆとりが日常化し、生み出された時間が授業改善や家庭訪問などの仕事に回帰する傾向がみられ、これまで以上に仕事をやり過ぎる恐れがあることから、教職員には、今一度ワークとライフのバランスを心掛けてほしいと回答しました。

さらに、今後の教育方針としては、引き続き教育改革を進め、コロナ禍において多くの教育活動が見直された経験を基に、時代に合った新しい学校教育の形を目指して改革を進め続けていくことをお伝えしました。

次に、障がいがある児童生徒への対応と課題については、障がいのある児童生徒の就学決定までの流れや市独自の取組について質問があり、就学先の判定については、教育支援委員会で児童生徒に適した教育環境が提供できるよう慎重に審議し、本人及び保護者のニーズ等を優先して決定していること。市独自の取組として、小中9年間の一貫教育支援シートを作成し、1人の児童生徒の支援記録を蓄積することで、担任が変わっても円滑かつ継続性のある支援ができるようにしていること。さらには、教育支援センターと連携し、発達障がいや特別支援教育に長けた人材を配置し、アウトリーチ型の支援を積極的に行い、本人や保護者に対し丁寧なサポートを行っていることを伝えました。

議員からは、通常教育だけでなく特別支援教育に人材を更に投入するなどして力を入れてほしいという意見をいただきました。

最後に、資料P69、12番の渡辺秀一議員からは、出産のお祝いに子育て応援ギフトカタログを配布する他市事例を挙げ、守谷市でもギフトの一品として、中央図書館の事業であるブックスタートパックを含めてはどうかとの提案がありました。

この質問に対し、ブックスタートは、赤ちゃんとその家族に絵本2冊をプレゼントし、読み聞かせしてもらうことで、本を好きになってもらいたいといった子ども読書活動推進計画に沿った事業であり、品物を選ぶギフトに絵本を入れること自体、事業の趣旨になじまないことをお伝えしました。

また、小学校の運動会等のイベント開催に関し、コロナ禍における各学校での開催状況や児童数の多少から生じる弊害について質問がありました。

この質問に対し、運動会は、各学校で感染対策を行いながら、児童数やグラウンドの広さなどの環境に応じて児童の安全を第一に考え、それぞれ工夫をこらして実施していること。また、運動会は表面的な出来栄や勝ち負けにこだわり過ぎず行うことが大切であること。運動会等の行事については、従前の形にこだわらず、本来の意義や目的からぶれない範囲で、その学校の児童数や施設環境に応じた形で執り行うことが重要であることをお伝えしました。

報告は以上となります。

椎名委員

昨日の都市計画審議会において、新守谷駅周辺土地地区画整理事業区域の子ども達の就学先が、御所ヶ丘小学校ということで計画が進んでいるが、児童数が著しく増加している学校や減少傾向にある学校、危険な通学箇所など、市の現況を踏まえた通学区域の再検討を行う考えはあるかといった趣旨の質問があった。

都市計画課の回答では、教育委員会と協力しながら、通学区域や通学路について検討していくということだったので、対応をお願いしたい。

教育部長

今回、補正予算で計上した小中学校適正配置計画策定業務委託において、2年間掛けて、市内全域の各学校の児童生徒数の推移等を見ながら、どのように再編を図っていくべきかについて協議していきたいと考えています。

ただ、現在、黒内小学校の大規模化がかなり進んでいることから、計画策定に先行してその対策を実施すべきか、来年度早々に協議に入りたいと考えています。

河原委員	<p>複数の議員から質問があった学校給食については、今年度、新センターがオープンしてから、給食が更に良くなった印象がある。異物混入の件数が大幅に減少するなど、施設が良くなった効果が現われており、来年度からはアレルギー対応食や給食費の直接徴収などの新たな取組も始まるということで、守谷市の給食はかなり高い水準にあると考えている。</p>
給食センター所長	<p>先日、黒内小学校のPTAの方々が給食センターを見学に来られた際も、衛生面で「安心した」という意見を多数いただきました。</p> <p>味に関しても、明らかに良くなっていると感じています。</p> <p>より良い給食の提供を目指して、更に努力してまいります。</p>
萩谷委員	<p>私も同席していたが、保護者の方々は、設備と徹底された管理体制から、子ども達に提供される給食が安心安全なものだということを再認識されていたようだった。</p> <p>また、坂所長の対応がとても丁寧で素晴らしかったので、保護者の方々は、働いている職員も含め、とても素晴らしい施設だといった印象を持って帰りました。</p>
寺田委員	<p>青木議員からいじめに関する質問があったが、いじめを根本からなくすためには、事前のいじめ撲滅に関する啓発を、児童生徒だけでなく保護者に対しても行うことが必要だと思う。</p> <p>そのような中、議員からもマンパワー拡充の提案もあったので、必要があればスクールワーカーなどの人数を増やし、活動機会の拡充等を進めて、いじめが減少に転ずるよう対応をお願いしたい。</p>
教育指導課長	<p>市内の小中学校において、いじめ撲滅のために尽力しているところですが、市教委としても、何とか学校のサポートができるよう取り組んでいます。</p> <p>保護者にも啓発という御意見がありましたが、年度初めに、茨城県の条例を保護者にも分かり易く作</p>

5 閉会宣言	教育長 成し、配布しました。その結果、いじめに対する保護者の理解が深まり、いじめの認知件数が増加しているのが現状です。 今後も学校のサポートができるよう取り組んでいきます。  次回の定例会の日程 ・日時 令和5年1月26日（木曜日） 午後1時30分～ ・場所 全員協議会室 午後2時23分 閉会を宣言
--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------